

浪江町中心市街地 検討委員会(第1回,第2回)・職員検討会(第1回,第2回,第3回)・ 町民座談会(第1回～第4回)の議論のまとめ

【資料3】

新町通り

(1) 新町通りの資源
①伝統文化(野馬追祭、はだか参り、など)
②イベント(十日市、緑のフェスティバル、など)
③浪江小学校
④中央公園、新町ふれあい広場
⑤空き地、空き店舗、空き家

(2) 課題 + 方向性
商店の経営が成り立つモデルケースの確立
浪江らしさを感じる空間づくり(イベント・歴史魅力的な商店の再生参加が必要)

(3) 新町通りに必要な取組案

イベントの復活や個人商店の再開	愛着のある旧施設の活用	屋台営業
114号線との交差点に休憩所を設置	駐車場の整備	回遊路の整備
ソフト事業とハード事業が必要	統一された外観	行政と地元の協働
歩道のセットバック	デマンド交通を活用した利便性の向上	浪江神社の移転
店舗所有者と店をやりたい人のマッチング	一方通行の導入	

平時は休憩所、憩いの場となり、イベント時は会場となる公園が必要
→きれいなトイレ、噴水、池、イルミネーション、ベンチ、木陰

小学校の活用→体験学習、文化財保存、高齢者学校、ボランティアの活動拠点

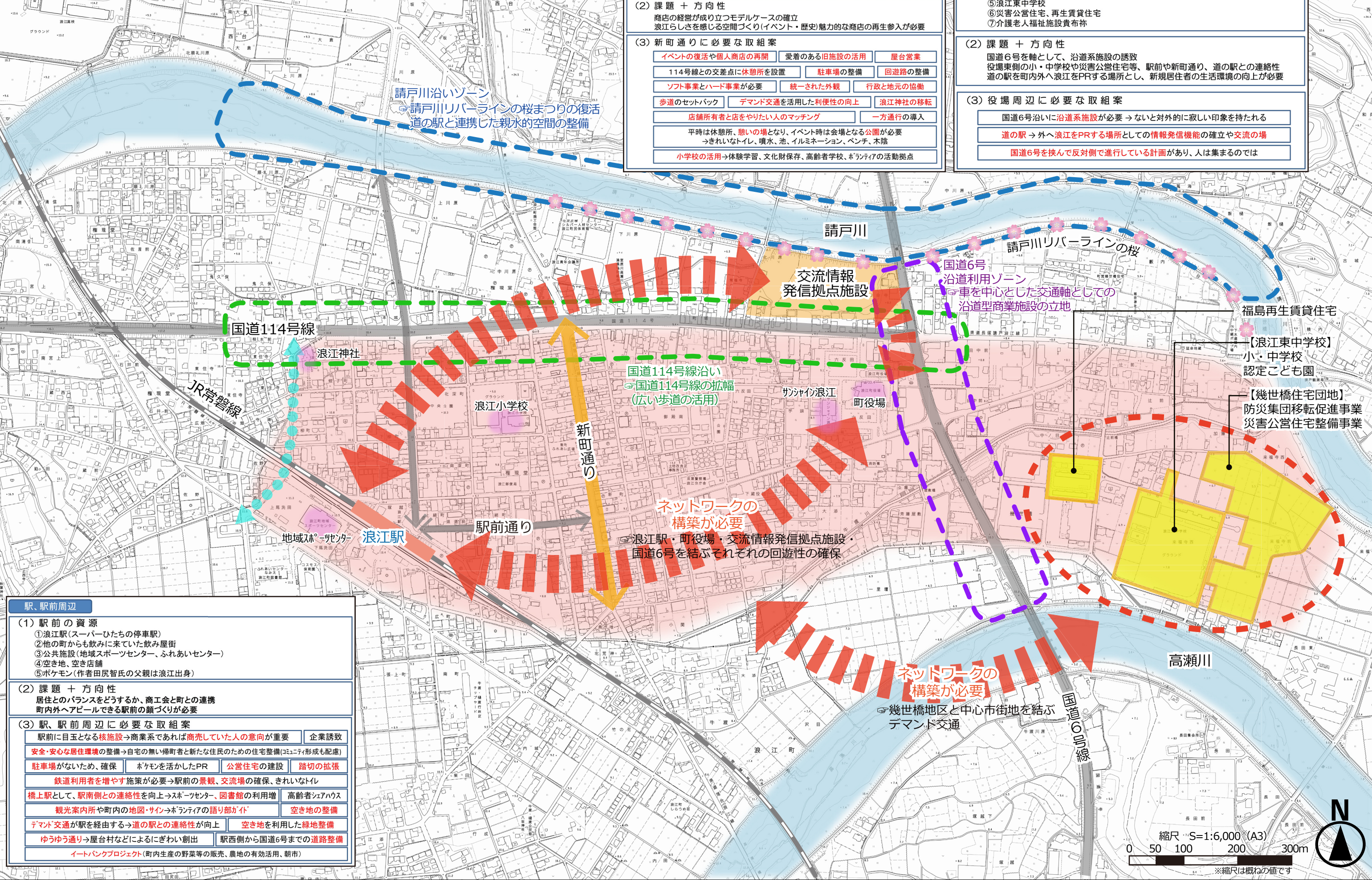
役場周辺

(1) 役場周辺の資源
①請戸川の桜、高瀬川
②イベント(マラソン大会、ロードレース)
③公共施設(第一体育館、サンシャイン浪江)
④ロードサイド店の空き店舗、駐車場
⑤浪江東中学校
⑥災害公営住宅、再生賃貸住宅
⑦介護老人福祉施設貴布祢

(2) 課題 + 方向性
国道6号を軸として、沿道施設の誘致
役場東側の小・中学校や災害公営住宅等、駅前や新町通り、道の駅との連絡性
道の駅を町内外へ浪江をPRする場所とし、新規居住者の生活環境の向上が必要

(3) 役場周辺に必要な取組案

国道6号沿いに沿道施設が必要 → ないと対外的に寂しい印象を持たれる
道の駅 → 外へ浪江をPRする場所としての情報発信機能の確立や交流の場
国道6号を挟んで反対側で進行している計画があり、人は集まるのでは



駅、駅前周辺

(1) 駅前の資源
①浪江駅(スーパーひたちの停車駅)
②他の町からも飲みに来ていた飲み屋街
③公共施設(地域スポーツセンター、ふれあいセンター)
④空き地、空き店舗
⑤ポケモン(作者田尻智氏の父親は浪江出身)

(2) 課題 + 方向性
居住とのバランスをどうするか、商工会と町との連携
町内外へアピールできる駅前の顔づくりが必要

(3) 駅、駅前周辺に必要な取組案

駅前に目玉となる核施設→商業系であれば商売していた人の意向が重要	企業誘致
安全・安心な居住環境の整備→自宅の無い帰町者と新たな住民のための住宅整備(コミュニティ形成も配慮)	
駐車場がないため、確保	ポケモンを活かしたPR
公営住宅の建設	踏切の拡張
鉄道利用者を増やす施策が必要→駅前の景観、交流場の確保、きれいなトイレ	
橋上駅として、駅南側との連絡性を向上→スポーツセンター、図書館の利用増	高齢者シェアハウス
観光案内所や町内の地図・サイン→ボランティアの語り部がい	空き地の整備
デマンド交通が駅を経由する→道の駅との連絡性が向上	空き地を利用した緑地整備
ゆうゆう通り→屋台村などによるにぎわい創出	駅西側から国道6号までの道路整備
イートバンクプロジェクト(町内生産の野菜等の販売、農地の有効活用、朝市)	

